

「デンタルミラーの活用」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

先日、高尾山の自然探勝路でアサギマダラの幼虫を探した時に、キジョランの葉を手あたり次第裏返したのを覚えている。私はその時、何か鏡のようなものがあれば便利だな、と思っていた。

子どもたちの自然観察も同じである。葉の裏にいるアゲハやテントウムシの小さな幼虫を探すには、葉の裏側も見ることが必要がある。子どもがすると、幼虫をつぶしたり落としたりしてしまうことも多い。



そこで思いついたのが、「デンタルミラー」である。歯医者さんが歯の裏側を検査するのに使う、柄のついた小さな鏡だ。プラスチック製の使い捨てのものなら1本50円程度なので、クラス人数分揃えてみた。



子どもたちはさっそく葉の裏側を観察し、次々と幼虫を発見していった。



私は最初、単に葉の裏側の観察に便利だろうと貸し出したのだが、思わぬ効果があった。大人よりも背の低い子どもの場合、手の届かない葉の観察もできる。また虫の苦手な子どもでも、鏡で見るだけなら抵抗が少ないこともわかった。



また、葉の裏だけでなく、高い場所にある「葉の表」の観察にも非常に役立つこともわかった。こういうものは、実際に子どもたちに使わせてみて、初めて効果が実証されることを実感した。



この日の一番人気は、テントウムシの幼虫だった。テントウムシの幼虫は、「幼虫のくせに」成虫なみに速く歩けるので、意外と見つけにくい。しかし、デンタルミラーのおかげで、この日は「大収穫」だった。